

愛恵だより

第 10 号

2022年7月1日 発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F
電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712
<http://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

神様との出会い - 母に導かれて -



公益財団法人 愛恵福祉支援財団
評議員 塚 越 敏 夫

私の母は85歳で亡くなりました。母は女学校を卒業後、地元桐生市の保育園（「高砂保育園」）に保母さんとして勤めておりましたが、その保育園を経営していたのは、日本基督教団桐生東部教会でした。昭和18年、母は洗礼を受けました。当時は太平洋戦争の厳しい時で、世間は反米英の思想が盛んな時でしたので、母が洗礼を受けたあと、実家の塀に「この家はヤソ教だ！」などという落書きをされた、と生前聞きました。

戦後、母は父と結婚し、私が長男として生まれました。私は、敬虔な母の体内に受胎した時から、母と一緒に桐生東部教会の礼拝に通っていて、この世に生を受けている期間より、「10月10日」多く教会に通っていたことになります。私と教会との繋がりとは、こんな風に始まったのです。父は、クリスチャンではありませんでしたが、家が教会の近くにあって、教会やキリスト教に対してとても寛容な人でした。

その後、私はその保育園に入れられ、日曜日には母に連れられて教会の日曜学校に通い、中学・高校生になると礼拝にも出席しました。しかし、宗教心が深かったわけではなかったので、洗礼を受けることはありませんでした。大学に進学して上京後は、教会からは遠ざかってしまいました。

私の好きな聖句の一つとして、子ども心に不思議に思った聖句があります。それは、「汝の敵を愛せよ、右の頬を打たれたら、左の頬をも差し出せ。」等々、神様とは何と変わった方なのだ！と、ずうっとこの聖句は私

の心の片隅にありました。

信仰は持ちませんでした。しかし、私の潜在的意識の中には、「キリスト教あるいは教会というものは、頼りにするに値する間違いのない世界なのだ」という確固たる信念がありました。それを示す出来事をお話したいと思います。

私は結婚後、娘と息子、子どもを二人授かり、千葉県の佐倉市に住んでおりました。子ども達を保育園に入れようと思い、妻が保育園をいろいろ調べ、「市立の保育園と、少し遠いけれどキリスト教の教会が経営する保育園があるようなの？ どっちにする？」と相談されました。私は即座に迷いなく「教会が経営する保育園がいいよ。そんなの当然だよ！」と答えました。その時の私の決然とした気持ちは今も記憶に残っています。その保育園が「光の子保育園」で、教会の牧師先生が長島成幸牧師でした。

その後、私達一家は鎌倉に移り住み、長島牧師とは年賀状のやり取りくらいとなって時が経ちました。そして、鎌倉で暮らす私達家族にとって重大な事件が起きました。長女が中学2年生の時でした。体育の運動中に心臓マヒで倒れ、家族の願いも叶わずそのまま急逝してしまっただけです。夜のことでした。そして、悲しみに打ちのめされていた翌朝、長島先生にお知らせしなければ、と思っていた矢先に、突然、長島牧師から電話があったのです。「皆さんお元気ですか？」と明るい声で。私は一瞬耳を疑い絶句してしまいました。「先生、長女は昨晩亡くなりました」、それ以上私には話すことができなかった。我に返って長島牧師に「なぜ、急にお電話をくださったのですか？」とお尋ねしましたところ、「何となく、急に塚越さんのご家族の声が聞きたくなったのです。ただ、何となくです。」とおっしゃる。不思議なことです。10年以上も電話をかけたことのなかった長島牧師から・・・です。

そばに母が居たので「虫が知らせたのかな？」と私が

コロナ禍のなかでの2021年度の活動

2021年度、本財団は公益財団法人として設立10年目を迎えました。しかしながら前年度に引き続き新型コロナの感染爆発が収まらず、計画していた事業は多大な影響を受け、変更や修正、そして再考を余儀なくされました。しかしその結果として、あらわになったコロナ禍現象に対応する事業を実施することができました。2021年度は、資金助成の活動に多くの支出をしました。特に経済的に困窮している大学生の緊急支援や外国。特にアジアの政治的。社会的窮状にある活動の支援については本誌第9号において一部紹介しましたが、加えて可能な限りの支援活動を実施しました。



石井十次記念講演会
私の世界人権宣言
～私の歩みを振り返って～

第30回記念石井十次賞受賞

社会福祉法人 鳥取こども学園理事長

藤野興一氏

2021年度

愛恵福祉支援財団主催公開講座

日時：2022年2月18日

会場：ビジョンセンター東京駅前

今日、児童虐待が繰り返されている現実がある。その対策として「施設を無くして里親や養子縁組を促進する」とする「新ビジョン」が国の方針とされ、施設入所児童の減少という厳しい環境の中で今こそ「日本型社会的養護」の構築が急がれている。創立117年目を迎える前身を「鳥取孤児院」から、現在の「鳥取こども園」の長い経営の立場から力説された。創立の精神であるキリスト教の「愛」の精神を再確認し、民間キリスト教社会事業の「専門性」「献身性」「先駆性」を体現しながら、豊富な実例をもとに「子どものために」「子どもの最善の

利益は」、子どもが真ん中にいる意味ある参加、「そのためには、子ども権利擁護システム（子どもアドボカシー機関）や「子ども省の創設」もと、子どもの「権利ベースの文化」を目指していくべきである。と情熱がほとばしる講演でした。

当日は、会場に直接ソーシャルデスタンスをとって参加された人、Zoomで参加された方、インターネット配信で参加された方と様々でしたが、それぞれの仕方で感銘を受けた講演会になりました。

当財団は「子どもアドボカシーシステムに関する中核的拠点形成と国際共同体の構築」のため、ユースとアドボカシー研究会のメンバーのカナダ渡航を支援することを予定しましたが、コロナ禍のため延期しました。

※参考資料（講師提言資料）

「鳥取県に子どもたちと一緒に闘うアドボカシーを構築したい」

特集：権利擁護を「当事者参加」の観点から再検証する。
『社会福祉研究』第142号

1面より続く

つぶやきますと、母は「虫なんかじゃないわよ、神様が知らせたのよ!」と私をたしなめました。私はその時、「この世で初めて、神様と出会った!」と感じました。「神の奇蹟」とはこういうことなのか、と思いました。そうとしか考えられない出来事でした。驚くべき事態でした。不思議な現象でした。また、母の信仰心の厚さにも痛感した瞬間でした。

今思えば、キリスト教に関しては、最初から母に導かれていたような気がします。結局において、神様は私を捉えて離さなかった。神様から離れようとしていた私を……。母の胎内のころから神様は私を見つめてくださっていた。優しい眼差しで。

私は、その後、日本基督教団鎌倉雪ノ下教会において、加藤常昭牧師によって受洗しました。以来、雪ノ下教の教会員として今日に至っています。福祉関係の仕事としては、キリスト教主義の大学や社会福祉法人の理事、評議員や顧問弁護士として奉仕させていただいております。

愛恵福祉支援財団を支える人たちは次のような人たちです。

- キリスト教精神に深い理解を有する者
- 社会福祉及び教育に豊かな知識経験を有する者
- 団体組織の運営・管理に実務経験のある者
- 国際交流の経験を有する者

2021年度 愛恵エッセイ賞受賞作から

今回のタイトルは「福祉社会」や「パンデミック」という言葉がメインとなっています。パンデミックはあくまでも感染症の世界的な拡大というだけの意味でしかありませんが、その世界で生きている人々の幸せについてストーリーを展開してもらえれば、という意図でサブテーマとしました。まさしく応募者の皆様はそれぞれ独自の視点から様々な気付きを表現してくださいました。

特に記憶に残った言葉（ゴシック体）を断片的ですがご紹介するとともに、選考委員の感想を付記しました。

「パンデミック下では、人々が健やかで文化的な生活を保障された社会という意味での福祉社会とは言い切れない。」

社会科学적인視点での受け取り方。

「全国津々浦々、お手紙友達大作戦」

自分にできることはないだろうか、という発想がグンと飛躍した楽しい想像。

「つらい経験を受け入れることは苦しい。しかしそれは敗北ではなく成長であり大切な強さである。自分が苦しかった経験を拒絶するのではない。」

つらさを乗り越えたところの境地と、それらの経験をしっかり受け止めることの大切さを知ったときの言葉。

「本来尊重しあうというのは妥協点を見つけて許容しあうことではない。」

尊重しあう事と妥協との違いを発見した！

「障害者にとって最もうれしいのは、制度の拡充ではなく多くの人が理解を示してくれること。」

自らの視点でまっすぐな気持ちを表現したそのまま。

「私が知らないということたくさんの人が傷ついているのだと思います。」

純粋な感性を持つ高校生の想像力の豊かさが心を打ちます。

「変な言い方になりますが、私たちが今便利な世の中に住んでいられるのはペストのおかげというわけです。」

ペストの流行によってヨーロッパの封建制度が崩落したことからの言葉。世界的な悲劇にはその次にそれを

もってどのような世界に変えてゆくのか、という大きな視点での気づき。

「回り道を拒否してその結果、道路工事が出来ずに中止になってしまったら、一番損をして困ることになるのは回り道をしなかった人たちだ。他人のためは自分のためでもある。」

人のために少し我慢をすることが結局自分にとってもメリットとなることをわかりやすくとえ話で。

「『ミミズもなあ、いい土さ作って手伝ってくれてるだ。何もしてねえわけじゃねえぞ。生きもんは皆、生きてるだけで支えあってるだ。』励ましに来た私が逆に励まされていた。」

・・・私はこの土のミミズになろう・・・」

復興支援しなきゃと肩ひじを張っていたのにミミズを見て悲鳴を上げてしまった自分。

「特別なことは何もできないが、共にあること、それが私の復興支援活動となった。」

地に足を付けることを学んだ経験。

社会を大きくつかんだ作風もあれば、日常の一場面をしっかりと見つめて大寫しにする作風もありました。それぞれ読みごたえがある作品群でした。

次回もぜひご応募ください。

応募数 275 件（過去最大の応募件数です。小学生から 90 代の方まで、様々な職種にわたっています。学生、特に高校生の応募が多かった。）

表彰式には、受賞者数名が Zoom で参加してくださいました。

最優秀受賞作は

学 生 の 部 音楽と福祉のしあわせの形

専門職の部 「言葉の偽薬」と嘘

一 般 の 部 私たちの使命

でした。

『2021 年度第 23 回愛恵エッセイ受賞作品集』受賞作品は愛恵のホームページからも読めます。

収益を公益事業費用に 愛恵財団の収益事業

愛恵福祉支援財団は公共の利益のために支援、育成などの公益事業を展開しておりますが、一方で「収益事業」も営んでおります。

所有する「愛恵ビル」の余裕部分をテナント契約で、一部を時間の駒貸し出しをしています。山手線駒込駅徒歩2分という「駅チカ」がメリットになって利用者には好評です。

地域の人々の「会議室」に利用されたり、ジャズ・シャンソン教室、書道教室、英会話、英語バイブルクラス、フラワーアレンジメント教室など会議以外にも趣味や学びの場所として多岐に利用されています。

収益の50%以上が公益事業のために供されています。

貸出し講演会DVDの案内

財団ではこれまでに行った公開講座の録画をDVDにて貸し出してあります。

ご希望の方は事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

loveandgrace@aikei-wf.or.jp



① 在宅でのホスピスケア



② 死を看取るために家族に必要なこと



③ 障がいのある人もない人も共に生きる社会を目指して



④ 日野原重明先生は死をどう生きたか



⑤ 石井十次と私



⑥ 私の世界人権宣言



掲示板を覗く人



書道教室



Bible English

愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分
北区中里2-6-1 愛恵ビル5F
電話 03(5961)9711

